

函 企 交

令和4年（2022年）8月31日

総務常任委員会委員 各位

企 画 部 長

参考資料の配付について

このことについて、令和4年8月31日に「北海道新幹線並行在来線対策協議会第9回渡島ブロック会議」が開催されましたので、下記のとおり関係資料を配付いたします。

また、8月に書面開催した「函館市地域公共交通協議会令和4年度第3回総会」提出資料を、下記のとおり配付いたします。

記

1 配付資料

(1) 函館線（函館・長万部間）における将来需要予測・収支
予測調査の精査について（概要）…………… 別添1

【第9回渡島ブロック会議配付資料】

・ 函館線（函館・長万部間）における将来需要予測・収
支予測調査の精査について…………… 別添2

(2) 函館市地域公共交通協議会 令和4年度第3回総会資料
…………… 別添3

（計画推進室交通政策課 TEL 21-3682）

(令和4年8月31日 函館市企画部調製)

○函館線（函館・長万部間）における将来需要予測

・収支予測調査の精査について（概要）

1 精査結果

【交通モード別収支予測等の見直し】

※北海道新幹線並行在来線対策協議会 第9回渡島ブロック会議資料抜粋

(単位：億円)

地域交通 確保方策	区分	初期 投資	単年度収支		30年累計 (初期投資含む)
			2030年度	2040年度	
第三セクター鉄道 (函館～長万部)	前回報告	317.3	▲18.8	▲20.3	▲944.2
	見直し結果	288.6	▲14.4	▲16.8	▲816.8
	(増減)	▲28.7	4.4	3.5	127.4
バス運行 (函館～長万部)	前回報告	36.6	▲2.5	▲2.0	▲130.4
	見直し結果	37.5	▲2.8	▲2.9	▲157.4
	(増減)	0.9	▲0.3	▲0.9	▲27.0
鉄道 (函館～新函館北斗) +バス (新函館北斗～長万部)	前回報告	160.9	▲11.5	▲12.8	▲565.4
	見直し結果	147.7	▲9.1	▲11.0	▲510.1
	(増減)	▲13.2	2.4	1.8	55.3
うち鉄道 (函館・新函館北斗)	前回報告	148.0	▲9.4	▲10.7	▲484.2
	見直し結果	131.7	▲6.7	▲8.4	▲405.1
	(増減)	▲16.3	2.7	2.3	79.1

※四捨五入の関係で、合計が一致しない場合がある。

2 精査結果を踏まえた今後の対応について

本精査結果は、前回（令和3年4月開催）の北海道新幹線並行在来線対策協議会渡島ブロック会議で報告されたものを、JR北海道からの情報提供等により一部見直し、その増減を表で示したものである。

なお、今後においても、JR北海道からの譲渡資産や北海道新幹線札幌延伸後の利用見込み等について引き続き精査し、その進捗を踏まえたうえで、渡島ブロック会議を通じて協議を進めていくこととしている。

1 「将来需要予測・収支予測調査」の精査

2030年度の北海道新幹線札幌延伸に伴い経営分離される函館線(函館・長万部間)の地域交通の確保方策の検討にあたり、令和3年4月のブロック会議で報告した「旅客流動調査・将来需要予測・収支予測調査」の結果に基づき、初期投資や運行経費などについて、収支改善等の見直し・精査を行った。

2 精査等の内容

(1) 鉄道運行

ア 初期投資の検討

① JR譲渡資産の精査(簿価への見直し)

函館・長万部間におけるJR譲渡資産について、前回の調査結果から、JR北海道からの情報提供に基づき、鉄道資産の簿価への置き換えを行う。

<JR譲渡資産内訳>

(単位：億円)

区分	函館～長万部			函館～新函館北斗		
	調査結果	簿価	差引	調査結果	簿価	差引
土地・建物	48.1	46.1	▲2.0	43.9	40.5	▲3.4
その他	131.9	131.9	—	58.3	55.2	▲3.1
計	180.0	178.0	▲2.0	102.2	95.6	▲6.5

※ 四捨五入の関係で数値が一致しない場合がある。

② JR譲渡資産の精査(鉄道施設の見直し)

三セク鉄道の運行形態により、使用が見込まれない鉄道関連施設は、JR譲渡資産から除外する。

【除外予定の鉄道資産等】

藤城線	藤城線は「下り」の旅客運行は1日3本であるため、全便、仁山経由の運行とし、譲渡資産から除外する。
五稜郭車両所	大規模車両検査(重要部検査等)をJR北海道へ委託する場合三セク会社では不要な施設のため除外する。

<JR譲渡資産内訳>

(単位：億円)

区分	函館・長万部間		函館・新函館北斗		削減額
	藤城線		五稜郭車両所		
土地・建物	46.1	0.3	40.5	2.3	▲2.6
線路設備	57.3	2.0	9.6	0.1	▲2.1
電路設備	53.2	1.0	27.5	0.4	▲1.4
その他	21.5	0.1	18.1	4.6	▲4.6
計	178.0	3.4	95.6	7.3	▲10.7

※ 四捨五入の関係で数値が一致しない場合がある。

③ 車両数の見直し等

令和3年度の収支予測では、現在、運行している列車本数及び車両数を基本としたダイヤにより試算を行ってきたが、今後、人口減少などの影響から利用者の減少が見込まれるため、運行に最低限必要な車両数となるよう見直しを行う。

・ 予備車両数の見直し

当初、函館線の「函館・森間」、「函館・長万部間」の各区分ごとに、気動車の予備車両、2編成(4両)を配置する予定であったが、事故や検査が重なった場合でも車両のやりくりが可能であるため購入予定の気動車両(4両)は見直しを行う。また、「新函館北斗・函館間」は電化区間であり、車両検査時と事故等の同時対応を踏まえると、予備車両は2編成(6両)必要なため、当初試算どおりとする。

【函館・長万部間(気動車)】 車両数 4両削減

区分		通常運行車両数		予備車両数		合計	
		編成数	車両数	編成数	車両数	編成数	車両数
函館・森	当初	2	4	2	4	4	8
	見直し	2	4	1	2	3	6
函館・長万部	当初	3	6	2	4	5	10
	見直し	3	6	1	2	4	8
計	当初	5	10	4	8	9	18
	見直し	5	10	2	4	7	14
差引		—	—	▲2	▲4	▲2	▲4

※上記のほか、函館・新函館北斗間で運用する電車(12両)が必要となる。

【函館・新函館北斗(電車)】 車両数 見直さない

区分		通常運行車両数		予備車両数		合計	
		編成数	車両数	編成数	車両数	編成数	車両数
函館・新函館北斗	当初	3	9	2	6	5	15
	見直し	3	9	2	6	5	15
差引		—	—	—	—	—	—

・ 車両数見直しによる影響(削減額)

「函館・森間」、「函館・長万部間」の予備車両(気動車)の見直しにより、初期投資を削減する。また、「函館・新函館北斗間」は見直しは行わない。
(単位：百万円)

車種	用途	単価	数量	削減額
気動車	新規車両	350/両	▲4両	▲1,400
733系(電気)	〃	750/両	—	—

函館線（函館・長万部間）における将来需要予測・収支予測調査の精査について

イ 収支見込みの見直し

① 運輸収入の見直し

・ 運賃改定

運賃設定については、JR北海道の運賃並として収支予測を行ったが、道南いさりび鉄道や他県の三セク鉄道では、開業時から30%程度の値上げを行っているため、先行事例と同様に運賃値上げを行った試算とする。

※ 運賃値上げにより、他の交通機関（バス・自家用車等）への転移が生じることが想定されることから、収支予測においては、利用者が10%減少すると想定する。

※ 当初の収支予測における運賃設定は、消費税増税前の2018年時点の運賃であることから、現在の運賃（2019年9月改定）に置き換えた上で、収支の試算を行う。

【運輸収入の見直し(運賃30%値上げ)】

(単位：百万円)

線区	区分	単年度(運輸収入)		30年累計
		2030年度	2040年度	
函館・長万部	当初	747.0	618.0	17,050
	見直し	1,171.9	969.8	26,769
	差引	424.9	351.8	9,719
函館・新函館北斗	当初	662.0	553.0	15,270
	見直し	930.8	779.3	21,529
	差引	268.8	226.3	6,259

※ 参考～他県三セク鉄道運賃改定の状況（開業当時から運賃を値上げ）

	道南いさりび鉄道	青い森鉄道	GRいわて銀河鉄道	肥前おれんじ鉄道
普通	1.3倍	1.4倍	1.6倍	1.3倍
通学定期	1.3倍	1.0倍	1.6倍	1.3倍
通勤定期	1.3倍	1.7倍	1.7倍	1.3倍

② 費用等の検討

・ 大規模改修費用の算出等

当初の試算では、老朽化等による施設整備費として毎年1,500万円を計上（函館・新函館北斗間：200万円）していたが、道南いさりび鉄道の例では、JR譲渡資産は、開業から10年間、安全運行に支障のないよう、事前にJRで必要な修繕等を行った上で施設を引き継ぐとの協議がされていたため、今回も同様の取扱いとし、開業から10年間は修繕増加分の費用計上は行わないことで整理する（恒常的修繕増加分は除外）。

また、当初試算で見込んでいる大規模補修費用（初期投資）について、JR北海道からの情報提供に基づき精査する。

区間	恒常的修繕増加分削減額	初期投資削減額
函館・長万部	▲1,500万円/年×10年間＝▲1.5億円	▲2.0億円
函館・新函館北斗	▲200万円/年×10年間＝▲0.2億円	▲2.5億円

・ 貨物調整金制度の見直し等

貨物調整金制度は、令和13(2030)年度以降、制度改正が見込まれているが、現時点での収支試算では、現行制度が存続することで試算を行う。

ウ 検討を要する主な課題等

・ 大規模改修費の取扱い

JR譲渡資産に関して、将来的に修繕が必要と見込まれる経費を初期投資に含めているが、この取扱いの見直し等について、幹事会で検討を行う。

・ 導入車両の検討(中古車両等)

車両検査等はJR北海道への委託を前提とするため、JR北海道が対応できる安価な車両導入の検討を進める。

・ 鉄道運行业務等の委託及び、保守要員等の確保

鉄道運行に要する駅員や乗務員、保線要員などの確保について、JR北海道と協議が必要。 ※鉄道事業法で委託可能な範囲については、国に確認が必要

(2) バス運行

ア 初期投資の検討

① 逸走率の検討

鉄道からバス運行に移行した場合、道南いさりび鉄道の例では、自家用車等への逸走が生じるとして、一定の割合で利用者が減少するとの見込みで試算を行っているため、先行事例と同様に今回の試算では見直しを行う。

・ 車両数の検討

道南いさりび鉄道の例では、通学生はバス転換後も公共交通を利用することが予想されるため、逸走率は5%とし、その他を50%として試算しているため、今回は、この考えを導入し、バス車両数の見直しを行う。

【バス車両数の見直し(逸走率:通学5%、その他50%)】

(単位：百万円)

線区	区分	車種	影響額
函館・長万部	当初	101台	3,030.0
	見直し	68台	2,040.0
	差引	▲33台	▲990.0
新函館北斗・長万部	当初	34台	1,020.0
	見直し	29台	870.0
	差引	▲5台	▲150.0

② バス車両の検討

バス利用者の利便性の向上を図るため、50km以上の長距離路線には、乗客全員が着席できるハイデッカータイプ(トイレ付)の車両とし、50km未満の短距離路線には、路線バスタイプ(ノンステップバス)の車両とすることで見直しを行う。

併せて、利便性の確保に向けて、車両にICカード対応機器の装着及び、バス待合所などにバスロケーションシステムを導入することで調整する。

函館線（函館・長万部間）における将来需要予測・収支予測調査の精査について

【バス車種の見直し 利便性の確保】

(単位：百万円)

線区	区分	車種	車両台数	影響額
函館・長万部	当初	ノンステップ	101台	3,030.0
	見直し	ノンステップ	27台	3,065.0
		ハイデッカー	41台	
	差引	—	▲33台	35.0
新函館北斗 ・長万部	当初	ノンステップ	34台	1,020.0
	見直し	ノンステップ	13台	1,270.0
		ハイデッカー	16台	
	差引	—	▲5台	250.0

【参考：バス車両等の価格】

項目	概算額
バス車両	
ハイデッカータイプ(トイレ付き)	5,000万円/台
ノンステップバス	2,500万円/台
ICカード対応機	500万円/台
バスロケーションシステム	6,000万円/一式

イ 収支見込みの見直し

① 運輸収入・費用の見直し

・ 逸走率の検討

初期投資の見直しでは、逸走率の考え方を導入したため、単年度収支の見直しにおいても、逸走率を踏まえた運輸収入の増減や利用者数に応じたバスの運行本数などバス運行に要する費用の見直しを行う。

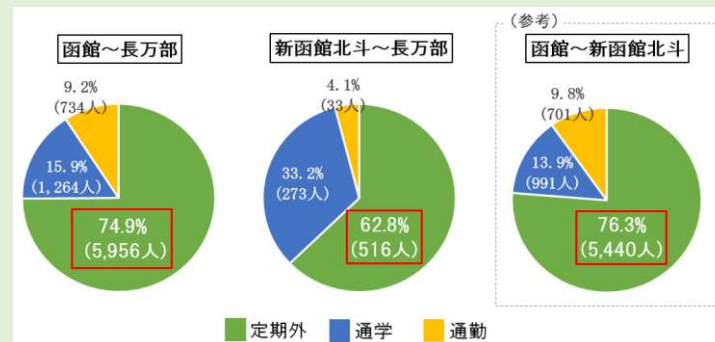
【収入、費用(逸走率 通学：▲5%、その他▲50%)】 (単位：百万円)

線区	区分	2030年度		
		収入	費用	収支
函館・長万部	当初	844.0	1,090.0	▲246.0
	見直し	453.5	731.0	▲277.5
	差引	▲390.5	▲359.0	▲31.5
新函館北斗 ・長万部	当初	152.0	359.0	▲207.0
	見直し	89.1	334.0	▲244.9
	差引	▲62.9	▲25.0	▲37.9
函館 ・新函館北斗 (参考)	当初	692.0	731.0	▲39.0
	見直し	364.4	397.0	▲32.6
	差引	▲327.6	▲334.0	6.4

【参考～乗車人員(2030年度推計)】

2030年度の乗車人員の推計では、「函館・長万部間」の乗車人員の70%以上、「新函館北斗・長万部間」の60%以上が定期外の利用となっていることから、通学などの定期利用者より、日常生活や観光等の利用が多いことが想定されるため、逸走率50%の考え方を導入した場合、運輸収入は大きく減少する。

また、「函館・新函館北斗間」の乗車人員は、定期外利用者が75%を超えており、日常利用者より、観光・ビジネス利用者が多いことが予想される。



ウ 検討を要する主な課題等

・ 補助対象路線等の検討

国や道が所管するバス補助制度のうち、広域的な路線への補助である「地域間幹線系統補助」や「広域生活交通路線」の補助対象となるバスルートの検討を行い、将来OD表をもとに推計した上で、収支予測の見直しについて検討を進める。

【補助金の考え方等】

○ 地域間幹線系統補助

複数市町村を結ぶ広域幹線の系統は、国と道が補助

○ 広域生活交通路線

一定の基準に該当する準広域的な路線は、道と市町村が補助

・ 利便性・速達性を確保したバスルート等の検討

バスの特性を活かしたルートの設定として、目的地(高校・病院等)まで直通するルートや速達性、利便性を確保したバスルートの検討を進める。

・ 交通拠点施設(結節点)の検討

バス路線を結ぶ交通結節点として、拠点施設等の必要性や設置について、幹事会で検討を進める。

函館線（函館・長万部間）における将来需要予測・収支予測調査の精査について

3 将来需要予測・収支予測調査等の精査結果

令和3年4月のブロック会議で示した函館線（函館・小樽間）旅客流動調査・将来需要予測・収支予測調査の結果について、鉄道運行やバス運行の場合における初期投資や単年度収支の再検討を行い、収支予測の見直しを行った。

【交通モード別収支予測等の見直し】

（単位：億円）

地域交通確保方策	区分	初期投資	単年度収支		30年累計 (初期投資を含む)
			2030年度	2040年度	
① 第三セクター鉄道 (函館・長万部間)	前回報告	317.3	▲ 18.8	▲ 20.3	▲ 944.2
	見直し結果	288.6	▲ 14.4	▲ 16.8	▲ 816.8
	(増減)	▲28.7	4.4	3.5	127.4
② バス運行 (函館・長万部間)	前回報告	36.6	▲ 2.5	▲ 2.0	▲ 130.4
	見直し結果	37.5	▲ 2.8	▲ 2.9	▲ 157.4
	(増減)	0.9	▲ 0.3	▲ 0.9	▲ 27.0
③ 第三セクター鉄道 +バス運行	前回報告	160.9	▲ 11.5	▲ 12.8	▲ 565.4
	見直し結果	147.7	▲ 9.1	▲ 11.0	▲ 510.1
	(増減)	▲ 13.2	2.4	1.8	55.3
第三セクター鉄道 (函館・新函館北斗間)	前回報告	148.0	▲ 9.4	▲ 10.7	▲ 484.2
	見直し結果	131.7	▲ 6.7	▲ 8.4	▲ 405.1
	(増減)	▲ 16.3	2.7	2.3	79.1
バス運行 (新函館北斗・長万部間)	前回報告	12.9	▲ 2.1	▲ 2.1	▲ 81.2
	見直し結果	16.0	▲ 2.4	▲ 2.6	▲ 105.0
	(増減)	3.1	▲ 0.3	▲ 0.5	▲ 23.8

交通モード別	区間(函館本線)
① 第三セクター鉄道	函館・長万部間
② バス運行	函館・長万部間
③ 第三セクター+バス	函館・新函館北斗:三セク 新函館北斗・長万部:バス

① 第三セクター鉄道運行の場合(函館～長万部)

※ 運行ダイヤは現行のJRと同等と仮定

(単位：億円)

	初期投資	単年度収支		30年累計 (初期投資を含む)
		2030年度	2040年度	
前回報告	317.3	▲ 18.8	▲ 20.3	▲ 944.2
見直し結果	288.6	▲ 14.4	▲ 16.8	▲ 816.8
(増減)	▲28.7	4.4	3.5	127.4

精査内容

【初期投資】

- ・ 予備車両数の見直しによる車両数の減（30両→26両） 【14.0億円削減】
- ・ JR譲渡資産の精査（JR協議：簿価へ見直し） 【 2.0億円削減】
- ・ JR譲渡資産の精査（必要資産の見直し） 【10.7億円削減】
- ・ 大規模補修費の精査（必要額の見直し） 【 2.0億円削減】

【単年度収支(2030年度)】

- ・ 運賃値上げ（30%）による収入増 【 4.2億円増収】
- ・ 経年劣化に伴う恒常的な修繕増加の見直しによる費用減 【 0.2億円費用減】

② バス運行の場合(函館～長万部)

(単位：億円)

	初期投資	単年度収支		30年累計 (初期投資を含む)
		2030年度	2040年度	
前回報告	36.6	▲ 2.5	▲ 2.0	▲ 130.4
見直し結果	37.5	▲ 2.8	▲ 2.9	▲ 157.4
(増減)	0.9	▲ 0.3	▲ 0.9	▲ 27.0

精査内容

【初期投資】

- ・ バス運行体系の見直しによる車両台数の変更（101台→68台）
及び車両の見直し（長距離路線をハイデッカーに変更） 【0.4億円増加】
- ・ バスロケーションシステム導入費用 【0.6億円増加】

【単年度収支(2030年度)】

- ・ 鉄道からバスへの移行に伴う逸走率の考慮
（通学定期5%減、通勤定期・定期外50%減） 【3.9億円減収】
- ・ バス運行体系の見直しによる運行経費削減 【3.6億円支出減】

函館線（函館・長万部間）における将来需要予測・収支予測調査の精査について

③ 第三セクター鉄道(函館～新函館北斗) +バス運行(新函館北斗～長万部)の場合

(単位：億円)

	初期投資 (A)	単年度収支 (B)		30年累計 (初期投資を含む)
		2030年度	2040年度	
前回報告	160.9	▲ 11.5	▲ 12.8	▲ 565.4
見直し結果	147.7	▲ 9.1	▲ 11.0	▲ 510.1
(増減)	▲ 13.2	2.4	1.8	55.3

【内 訳】

・ 第三セクター鉄道運行の場合 (函館～新函館北斗)

(単位：億円)

	初期投資	単年度収支		30年累計 (初期投資を含む)
		2030年度	2040年度	
前回報告	148.0	▲ 9.4	▲ 10.7	▲ 484.2
見直し結果	131.7	▲ 6.7	▲ 8.4	▲ 405.1
(増減)	▲ 16.3	2.7	2.3	79.1

精査内容

【初期投資】

- ・ 予備車両数の見直しによる車両数の減 (15両→15両) 【 削減なし 】
- ・ J R譲渡資産の精査 (J R協議：簿価へ見直し) 【 6.5億円削減】
- ・ J R譲渡資産の精査 (必要資産の見直し) 【 7.3億円削減】
- ・ 大規模補修費の精査 (必要額の見直し) 【 2.5億円削減】

【単年度収支 (2030年度)】

- ・ 運賃値上げ (30%) による収入増 【 2.7億円増収】
- ・ 経年劣化に伴う恒常的な修繕増加の見直しによる費用減 【 0.02億円費用減】

・ バス運行の場合 (新函館北斗～長万部)

(単位：億円)

	初期投資	単年度収支		30年累計 (初期投資を含む)
		2030年度	2040年度	
前回報告	12.9	▲ 2.1	▲ 2.1	▲ 81.2
見直し結果	16.0	▲ 2.4	▲ 2.6	▲ 105.0
(増減)	3.1	▲ 0.3	▲ 0.5	▲ 23.8

精査内容

【初期投資】

- ・ バス運行体系の見直しによる車両台数の変更 (34台→29台) 及び
車両の見直し (長距離路線をハイデッカーに変更) 【2.5億円増加】
- ・ バスロケーションシステム導入費用 【0.6億円増加】

【単年度収支 (2030年度)】

- ・ 鉄道からバスへの移行に伴う逸走率の考慮 (通学定期5%減、通勤定期・定期外50%減) 【0.6億円減収】
- ・ バス運行体系の見直しによる経費削減 【0.2億円支出減】

4 その他(函館線:並行在来線(函館・長万部間))



令和4年度第3回函館市地域公共交通協議会（書面協議会） 議題要旨・資料目次

< 議題要旨 >

議題番号	議題	概要
1	函館バス株式会社における路線バスの経路変更および廃止等について	<p>函館バス株式会社が、令和4年10月1日に実施を予定するダイヤ改正のうち、路線の廃止等について、事前協議を要するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 45系統廃止 ・ 69系統（協議運賃路線）経路変更 ・ 84系統（協議運賃路線）経路変更
2	報告事項	<p>プロポーザル審査分科会（令和4年度第1回総会において設置）が行った、函館市地域公共交通計画策定に係る調査業務に係る公募型プロポーザルの審査結果について報告するもの。</p> <p>※参考資料として「調査事業スケジュールについて」を添付</p>

< 資料目次 >

資料1 路線バスの経路変更および廃止等について

資料2 「函館市地域公共交通計画策定に係る調査業務」に係る公募型プロポーザル審査結果について

路線バスの経路変更および廃止等について

1	バス路線の経路変更、減便および廃止等	1 ページ
①	4 5 系統 利用状況、運行系統図	2 ページ
②	6 9 系統 利用状況、運行系統図	5 ページ
③	8 4 系統 利用状況、運行系統図	8 ページ
(参考)	6 1 A 系統 運行系統図	1 1 ページ

1 バス路線の経路変更、減便および廃止等

函館バスでは令和4年10月1日に実施するダイヤ改正にあたり、下記の通り赤字路線となっている45系統の系統廃止、亀田支所前乗降場乗り入れ実施や陣川方面の路線見直しによる69系統の経路変更等、新規店舗となるスーパーアークス千代台店への乗り入れ実施による84系統の経路変更等をそれぞれ予定しており、これらについて協議いたします。

○協議事項一覧

	対象系統	起終点	見直しの内容	実施日	
【系統廃止】					
①	45系統	亀田支所前 ⇔(葛屋書店前・ 津軽海峡フェリー経由) ⇔ポールスター ショッピングセンター	系統廃止 (一部路線廃止)	R4.10.1 (2022.10.1)	
【経路変更等】					
②	69系統	昭和営業所 ⇔(中央小学校裏経由) ⇔上陣川旋回場	経路変更 (協議運賃対象系統)		
③	84系統	(函館バスセンター) ⇔サッポロドラッグストア 日乃出店前 ⇔(人見町・五稜郭病院前経由) ⇔サッポロドラッグストア 日乃出店前(循環) ⇔(函館バスセンター)	経路変更・時刻変更・ 減便 (協議運賃対象系統)		

① 45系統

(1) 見直しの内容 : 廃止

(2) 路線の概要(系統図 別添)

		＜廃 止＞
運行経路	下り	亀田支所前～昭和ターミナル～蔦屋書店前～西桔梗～石田文具前～津軽海峡フェリー～北大前～港小学校通～市立函館病院～ポールスターショッピングセンター
	上り	ポールスターショッピングセンター～市立函館病院～港小学校通～北大前～津軽海峡フェリー～石田文具前～西桔梗～昭和～蔦屋書店前～藤岡眼科前～石川学園台～昭和ターミナル～亀田支所前
運行回数	下り	平日 1.0回/日 土日祝 1.0回/日
	上り	平日 1.0回/日 土日祝 1.0回/日
系統キロ	下り	11.3km
	上り	13.6km

(3) 見直しの考え方

(ア) 当系統は、主に日中時間帯における買い物利用を想定し、美原地区から蔦屋書店前や西桔梗、さらにはフェリー利用者を取り込むため津軽海峡フェリー一等を経由し、ポールスターショッピングセンターまでを結ぶ路線として設定。

(イ) 亀田支所前までの延伸等を行ってきたが、慢性的な赤字が継続していることから、当系統を廃止する。

【下り線：1便目→平均2.45人/日 2便目→平均3.26人/日】

【上り線：1便目→平均3.35人/日 2便目→平均2.58人/日】

(ウ) ポールスターショッピングセンターに乗り入れを行う以外に独自区間が無く、利用実績では市立函館病院から乗車し、亀田支所前で降車する場合は殆どであるため、主に72系統で代替可能である。

4 5 系統 停留所別乗降データ

集計期間：2022/5/16-2022/6/15

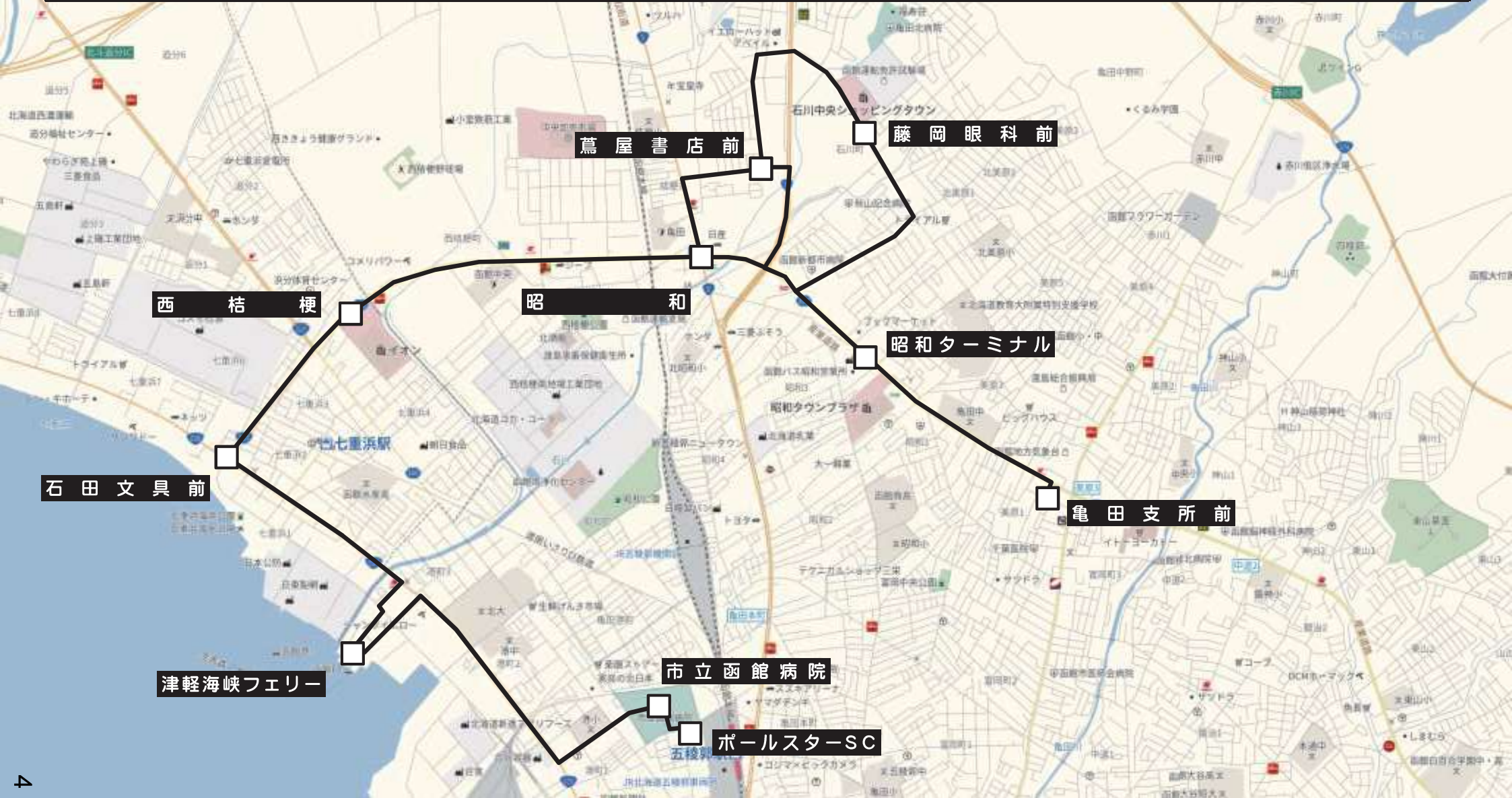
(単位：人)

停留所 連番号	停留所名	11:50発			14:00発			合計		
		乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過
1	亀田支所前③	30	0	30	40	0	40	70	0	70
2	亀田中学校前	4	0	34	14	1	53	18	1	87
3	昭和ターミナル	9	1	42	4	3	54	13	4	96
4	新都市病院前	6	3	45	7	1	60	13	4	105
5	蔦屋書店前	14	14	45	20	34	46	34	48	91
6	流通センター入口	0	0	45	0	2	44	0	2	89
7	中央自動車学校前	1	2	44	1	1	44	2	3	88
8	西桔梗	3	16	31	6	20	30	9	36	61
9	七重浜保育園前	0	2	29	0	0	30	0	2	59
10	七重浜保育園前	1	1	29	0	0	30	1	1	59
11	石田文具前	2	2	29	7	1	36	9	3	65
12	七重浜	0	2	27	0	0	36	0	2	63
13	七重浜1丁目	0	3	24	0	0	36	0	3	60
14	津軽海峡フェリー	0	6	18	0	0	36	0	6	54
15	港町臨港通	0	0	18	0	0	36	0	0	54
16	臨港橋	1	0	19	0	0	36	1	0	55
17	北大前	1	2	18	1	8	29	2	10	47
18	港中学校前	3	5	16	0	2	27	3	7	43
19	港小学校通	1	2	15	0	10	17	1	12	32
20	港小学校前	0	0	15	1	3	15	1	3	30
21	市立函館病院	0	12	3	0	10	5	0	22	8
22	ポールスターSC	0	3	0	0	5	0	0	8	0
合計		76	76		101	101		177	177	

停留所 連番号	停留所名	12:33発			14:43発			合計		
		乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過
1	ポールスターSC	5	0	5	2	0	2	7	0	7
2	市立函館病院	35	1	39	18	2	18	53	3	57
3	港小学校前	1	0	40	0	1	17	1	1	57
4	港小学校通	4	0	44	0	0	17	4	0	61
5	港中学校前	1	2	43	0	0	17	1	2	60
6	北大前	4	6	41	6	2	21	10	8	62
7	津軽海峡フェリー	0	1	40	2	2	21	2	3	61
8	港町臨港通	0	0	40	0	0	21	0	0	61
9	臨港橋	1	0	41	0	0	21	1	0	62
10	七重浜1丁目	3	0	44	0	0	21	3	0	65
11	七重浜	0	2	42	0	2	19	0	4	61
12	石田文具前	4	4	42	2	3	18	6	7	60
13	七重浜保育園前	1	2	41	2	0	20	3	2	61
14	七重浜保育園前	1	1	41	1	0	21	2	1	62
15	西桔梗	4	3	42	12	0	33	16	3	75
16	中央自動車学校前	0	0	42	2	0	35	2	0	77
17	流通センター入口	0	0	42	0	0	35	0	0	77
18	昭和	4	5	41	1	5	31	5	10	72
19	蔦屋書店前	17	10	48	14	6	39	31	16	87
20	桔梗町418番地	1	3	46	5	3	41	6	6	87
21	藤岡眼科前	3	6	43	8	2	47	11	8	90
22	北美原クリニック前	5	2	46	3	5	45	8	7	91
23	石川学園台	1	0	47	1	0	46	2	0	93
24	新都市病院正門前	2	1	48	0	3	43	2	4	91
25	昭和ターミナル	5	8	45	1	13	31	6	21	76
26	亀田中学校前	2	5	42	0	2	29	2	7	71
27	亀田支所前③	0	42	0	0	29	0	0	71	0
合計		104	104		80	80		184	184	

45 系統 路線図

運行経路	運行回数	現行 キロ数	所要時分	運行回数	改正後 キロ数	所要時分
亀田支所前～昭和ターミナル～蔦屋書店前～西桔梗～石田文具前～ 津軽海峡フェリー～ポールスターショッピングセンター	1.0 回	11.3km	0:33	0.0 回	0.0km	0:00
ポールスターショッピングセンター～津軽海峡フェリー～石田文具前～西桔梗 ～昭和～蔦屋書店前～藤岡眼科前～昭和ターミナル～亀田支所前	1.0 回	13.6km	0:41	0.0 回	0.0km	0:00



② 69系統

(1) 見直しの内容 : 経路変更・時刻変更

(2) 路線の概要(系統図 別添)

		<現行>	<見直し後>
運行経路	下り	昭和営業所～昭和1丁目～昭和ターミナル～亀田中学校前～亀田支所前⑦～中央小学校前～中央小学校裏～函館地方気象台前～赤川通～赤川1丁目～神山児童館～四稜郭～高野寺～東照宮参道～宮の苑～栗の木公園～上陣川～上陣川旋回場	昭和営業所～亀田中学校前～亀田支所前④～亀田支所前⑦～中央小学校前～中央小学校裏～函館地方気象台前～赤川通～赤川1丁目～神山児童館～四稜郭～高野寺～東照宮参道～宮の苑～栗の木公園～上陣川～上陣川旋回場
	上り	上陣川旋回場～上陣川～栗の木公園～宮の苑～東照宮参道～高野寺～四稜郭～神山児童館～赤川1丁目～赤川通～中央小学校裏～中央小学校前～亀田支所前～亀田中学校前～昭和ターミナル	上陣川旋回場～上陣川～栗の木公園～宮の苑～東照宮参道～高野寺～四稜郭～神山児童館～赤川1丁目～赤川通～中央小学校裏～中央小学校前～亀田支所前～亀田中学校前～昭和ターミナル
運行回数		平日 3.0回/日 土日祝 2.0回/回	平日 3.0回/日 土日祝 2.0回/回
系統キロ	下り	7.9km	7.3km
	上り	7.0km	7.0km

(3) 見直しの考え方

- (ア) 新設する61A系統が、上陣川行き運行時に美原地区路線バス乗降場へ乗り入れを行うことから、併せて当系統も乗降場乗り入れを開始する。
- (イ) 昭和1丁目・昭和ターミナルの利用が少なく、かつ昭和営業所付近に停留所が集中していることから、昭和営業所発便において昭和1丁目・昭和ターミナルの取り扱いを中止し、昭和営業所に一本化することで効率化を図る。

69系統 停留所別乗降データ(平日)

集計期間：2022/5/16-2022/6/15

(単位：人)

停留所 連番号	停留所名	11:30発			13:00発			16:04発			合計		
		乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過
1	昭和営業所前	3	0	3	4	0	4	19	0	19	26	0	26
2	昭和1丁目	0	0	3	0	0	4	2	0	21	2	0	28
3	昭和ターミナル	2	0	5	2	0	6	1	0	22	5	0	33
4	亀田中学校前	2	0	7	6	0	12	11	1	32	19	1	51
6	亀田支所前⑦	27	2	32	24	4	32	36	8	60	87	14	124
7	中央小学校前	58	2	88	50	4	78	37	0	97	145	6	263
8	中央小学校裏	0	1	87	0	3	75	0	1	96	0	5	258
9	函館地方気象台前	4	4	87	3	0	78	3	0	99	10	4	264
10	赤川通	0	12	75	0	1	77	0	5	94	0	18	246
11	赤川1丁目	1	1	75	0	2	75	2	1	95	3	4	245
12	神山児童館	0	12	63	0	5	70	0	3	92	0	20	225
13	四稜郭	0	0	63	0	1	69	0	2	90	0	3	222
14	高野寺	0	25	38	0	18	51	0	15	75	0	58	164
15	東照宮参道	0	20	18	0	23	28	0	33	42	0	76	88
16	宮の苑	0	7	11	0	8	20	0	6	36	0	21	67
17	栗の木公園	0	0	11	0	0	20	0	0	36	0	0	67
18	上陣川	0	8	3	0	13	7	0	35	1	0	56	11
19	上陣川旋回場	0	3	0	0	7	0	0	1	0	0	11	0
合計		97	97		89	89		111	111		297	297	

停留所 連番号	停留所名	9:21発			12:01発			13:31発			合計		
		乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過
1	上陣川旋回場	0	0	0	1	0	1	2	0	2	3	0	
2	上陣川	27	0	27	7	0	8	8	0	10	42	0	45
3	栗の木公演	6	0	33	4	0	12	1	0	11	11	0	56
4	宮の苑	11	0	44	5	0	17	7	0	18	23	0	79
5	東照宮参道	40	0	84	23	0	40	3	0	21	66	0	145
6	高野寺	47	0	131	10	0	50	7	1	27	64	1	208
7	四稜郭	0	0	131	0	0	50	2	0	29	2	0	210
8	神山児童館	27	1	157	5	0	55	2	1	30	34	2	242
9	赤川1丁目	2	1	158	4	1	58	0	0	30	6	2	246
10	赤川通	2	3	157	6	5	59	1	6	25	9	14	241
11	中央小学校裏	2	2	157	0	1	58	1	0	26	3	3	241
12	中央小学校前	0	96	61	6	46	18	4	11	19	10	153	98
13	亀田支所前⑤	2	49	14	6	8	16	4	12	11	12	69	41
14	亀田中学校前	0	5	9	0	2	14	0	1	10	0	8	33
15	昭和ターミナル	0	9	0	0	14	0	0	10	0	0	33	0
合計		166	166		77	77		42	42		285	285	

69系統 路線図

運行経路	運行回数	現行 キロ数	所要時分	運行回数	改正後 キロ数	所要時分
昭和営業所前～亀田支所前～中央小学校前～赤川1丁目～四稜郭入口～上陣川旋回場	1.5回	7.9km	0:26	1.5回	7.3km	0:29
上陣川旋回場～四稜郭入口～赤川1丁目～中央小学校前～亀田支所前～昭和ターミナル	1.5回	7.0km	0:22	1.5回	7.0km	0:22



③ 84系統

(1) 見直しの内容 : 経路変更(新規停留所乗り入れ)・時刻変更・減便

(2) 路線の概要(系統図 別添)

	＜現行＞	＜改正後＞
運行経路	(函館バスセンター)～サッポロドラッグストア一日乃出店前～時任町～駒場通～柏木町～五稜郭病院前～五稜郭～巴中学校～サッポロドラッグストア一日乃出店前～(函館バスセンター)	(函館バスセンター)～サッポロドラッグストア一日乃出店前～時任町～駒場通～柏木町～五稜郭病院前～五稜郭～ スーパーアークス千代台店 ～巴中学校～サッポロドラッグストア一日乃出店前～(函館バスセンター)
運行回数	平日 9 循環／日	平日 8 循環／日
系統キロ	6.2km (函館 BC 起終点時 7.2km)	6.4 km (函館 BC 起終点時 7.4 km)

(3) 見直しの考え方

- (ア) スーパーアークス千代台店の開店(予定)に伴い、運行経路上にあることに加え、当系統は買い物利用層が多いことから、より一層の利便性向上を図るため乗り入れを実施する。
- (イ) 乗り入れに伴い、運行時刻および運行回数の調整を実施。

(単位：人)

停留所別乗降データ

84系統 日乃出・五稜郭循環

集計期間：2022/5/16-2022/6/15

停留所 連番	停留所名	9：36発			10：11発			10：41発			11：11発			11：46発			12：21発			12：51発			13：21発			13：51発			合計			
		乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	
1	函館バスセンター	11	0	11									20	0	33														31	0		
2	正法寺前	8	0	19									1	0	34													9	0	53		
3	日乃出郵便局前	0	0	19									1	0	35													1	0	54		
4	サッポロドラッグストア 日乃出店前	32	0	51	9		32	6		58	13		55	7	0	42	7		81	7		54	3		44	13		39	97	0	456	
5	うみの星保育園前	65	0	116	22	1	53	15	5	68	4	5	54	5	2	45	9	10	80	0	13	41	1	11	34	1	12	28	122	59	519	
6	的場町団地前	13	0	129	5	0	58	11	7	72	3	2	55	1	4	42	0	10	70	0	0	41	0	5	29	1	0	29	34	28	525	
7	的場公園前	40	0	169	0	0	58	4	4	72	1	6	50	5	4	43	0	5	65	1	0	42	5	0	34	0	0	29	56	19	562	
8	時任町	2	0	171	11	1	68	3	2	73	4	3	51	2	0	45	2	4	63	0	1	41	6	1	39	2	0	31	32	12	582	
9	人見町	22	2	191	32	4	96	16	5	84	19	11	59	4	6	43	9	16	56	3	15	29	11	7	43	6	4	33	122	70	634	
10	人見町団地前	10	17	184	9	8	97	3	12	75	18	7	70	23	7	59	4	10	50	7	5	31	4	5	42	8	3	38	86	74	646	
11	駒場通	9	0	193	4	2	99	13	14	74	3	7	66	4	3	60	10	13	47	9	9	31	1	11	32	6	6	38	59	65	640	
12	柏稜高校前	4	0	197	2	1	100	1	4	71	5	1	70	2	2	60	1	2	46	2	1	32	11	0	43	0	0	38	28	11	657	
13	柏木町	2	11	188	7	9	98	1	10	62	0	5	65	3	12	51	4	7	43	10	4	38	6	6	43	1	3	36	34	67	624	
14	N T T 前	1	3	186	1	0	99	0	2	60	2	2	65	1	1	51	1	2	42	0	2	36	0	0	43	0	2	34	6	14	616	
15	柏野小学校裏	2	7	181	4	9	94	3	1	62	1	3	63	0	3	48	0	1	41	0	1	35	1	0	44	1	0	35	12	25	603	
16	五稜郭病院前	2	23	160	4	11	87	6	5	63	2	9	56	8	8	48	0	4	37	3	3	35	1	0	45	1	3	33	27	66	564	
17	五稜郭公園入口	0	55	105	0	27	60	1	4	60	5	8	53	5	4	49	2	4	35	3	4	34	2	2	45	0	4	29	18	112	470	
18	五稜郭②	13	71	47	34	46	48	53	47	66	32	24	61	80	24	105	58	23	70	37	19	52	27	19	53	12	24	17	346	297	519	
19	五稜郭⑤	1	16	32	4	3	49	16	2	80	7	3	65	16	2	119	12	0	82	16	1	67	4	1	56	2	1	18	78	29	568	
20	中央病院前	3	12	23	5	3	51	2	2	80	1	2	64	3	2	120	1	8	75	2	2	67	0	6	50	2	0	20	19	37	550	
21	中部高校裏	3	1	25	2	0	53	5	1	84	3	2	65	5	3	122	1	1	75	1	0	68	0	1	49	0	1	19	20	10	560	
22	巴中学校	1	0	26	2	3	52	2	12	74	0	1	64	1	3	120	0	3	72	0	5	63	0	2	47	0	3	16	6	32	534	
23	鈴かけ通	11	7	30	16	8	60	3	22	55	1	32	33	6	27	99	3	13	62	1	9	55	2	13	36	1	11	6	44	142	436	
24	サッポロドラッグストア 日乃出店前		7	23		8	52		13	42	0	13	20		25	74		15	47		14	41		10	26	0	3	3	0	108	328	
25	日乃出郵便局前										0	0	20														0	0	3	0	0	23
26	正法寺前										0	4	16														0	1	2	0	5	18
27	函館バスセンター										0	3	13														0	2	0	0	5	13
合計		255	232		173	144		164	174		124	153		203	142		124	151		102	108		85	100		57	83		1287	1287		

8 4 系統 路線図

運行経路	運行回数	現行 キロ数	所要時分	運行回数	改正後 キロ数	所要時分
函館バスセンター～サッポロドラッグストア日乃出店～人見町団地前～ N T T 前～五稜郭～スーパーアークス千代台店～サッポロドラッグストア日乃出店前	1.0 回	7.0km	0:32	1.5 回	7.2km	0:34
サッポロドラッグストア日乃出店～人見町団地前～ N T T 前～五稜郭～スーパーアークス千代台店～サッポロドラッグストア日乃出店前	2.5 回	6.0km	0:27	1.0 回	6.2km	0:29
サッポロドラッグストア日乃出店～人見町団地前～N T T 前～五稜郭～ スーパーアークス千代台店～サッポロドラッグストア日乃出店前～函館バスセンター	1.0 回	7.0km	0:32	1.5 回	7.2km	0:34



(参考) 61A系統

(1) 見直しの内容 : 新設

(2) 路線の概要(系統図 別添)

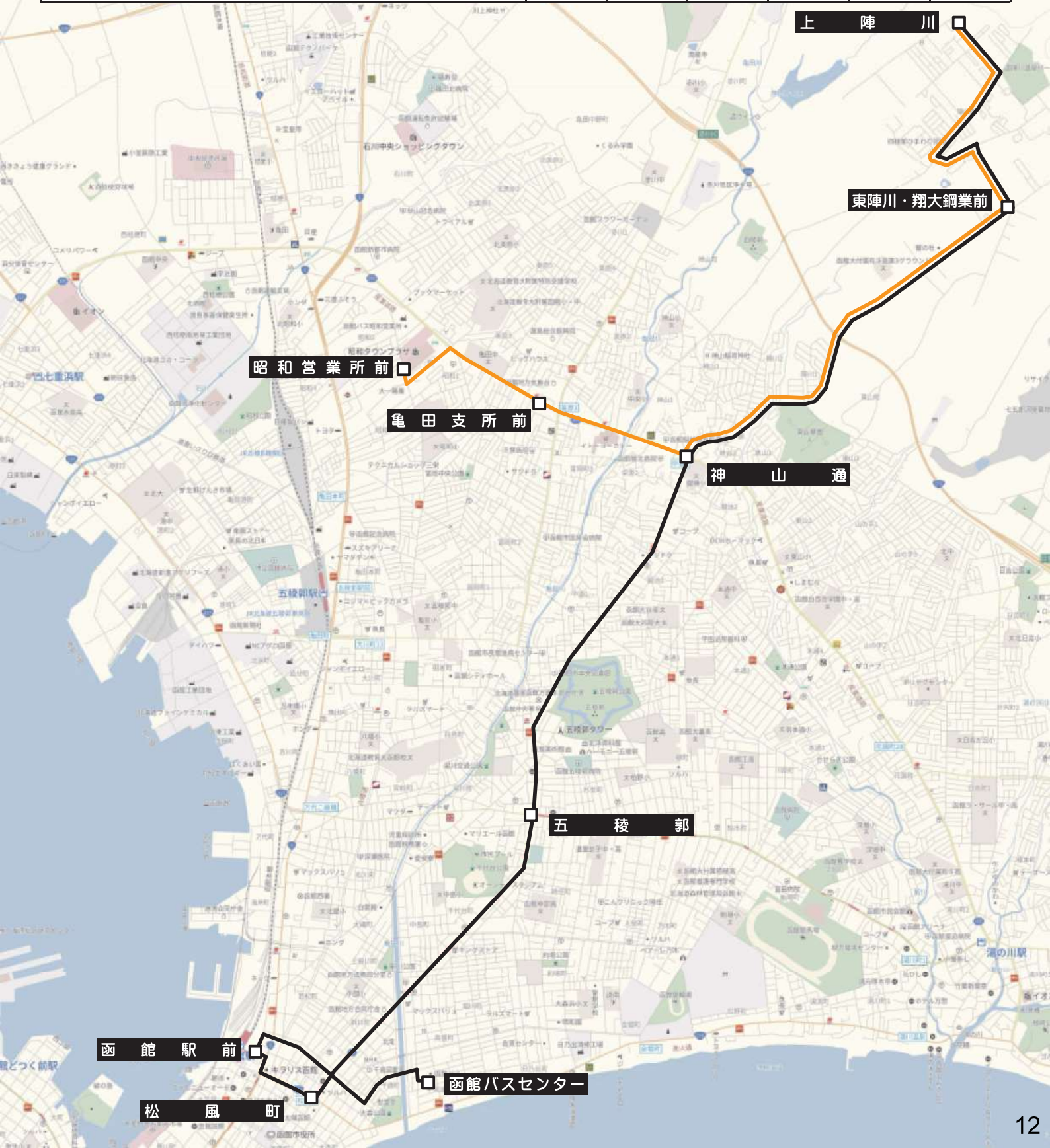
	<新設>
運行経路	上陣川～栗の木公園～宮の苑～東照宮参道～高野寺～放光寺～東陣川・翔大鋼業前～東山町～東山町西～よつば学園前～陣川団地前～陣川1丁目～東山墓園前～神山2丁目～神山通～中央小学校前～亀田支所前～亀田中学校前～昭和ターミナル(始発時:昭和営業所)
運行回数	平日 3.0回/日
系統キロ	7.7km

(3) 路線の考え方

- (ア) 陣川地域と各地域間のアクセス性向上を図るため、61系統の日中便を亀田支所前乗降場乗り入れを行う形で昭和ターミナル起終点(始発時は昭和営業所発)として経路を設定。
- (イ) 神山通・亀田支所前にて五稜郭・函館駅前方面の便に乗り換えが可能であり、利便性の維持を図っている。
- (ウ) 当系統の新設に合わせて競合路線である69系統の時刻も見直すことで、陣川方面の交通利便性向上を図る。

61系統・61A系統 路線図

運行経路	運行回数	現行 キロ数	所要時分	運行回数	改正後 キロ数	所要時分
(既存) 61系統 函館BC～函館駅前～松風町～五稜郭～神山通～東陣川～上陣川	8.0回	13.4km	0:47	5.0回	13.4km	0:47
(既存) 61系統 上陣川～東陣川～神山通～五稜郭～松風町～函館駅前～函館BC	8.0回	13.4km	0:49	5.0回	13.4km	0:49
(新設) 61A系統 亀田支所前～神山通～東陣川～上陣川	—	—	—	3.0回	7.7km	0:27
(新設) 61A系統 上陣川～東陣川～神山通～亀田支所前	—	—	—	3.0回	7.7km	0:22



「函館市地域公共交通計画策定に係る調査業務」に係る 公募型プロポーザル審査結果について

函館市地域公共交通協議会は、函館市地域公共交通計画策定に係る調査業務の募集に関し、応募のあった6者について、企画提案書の審査およびヒアリングを実施し、令和4年6月27日（月）にプロポーザル審査分科会を開催したうえで、次の事業者を受託候補者として決定した。

企画提案者（6者）

- ・（株）オリエンタルコンサルタンツ 北海道支社
- ・（株）建設技術研究所 北海道支社
- ・日本工営（株） 札幌支店
- ・（株）復建技術コンサルタント 函館事務所
- ・ランドブレイン（株）
- ・（株）ドーコン

受託候補者

札幌市中央区北3条西3丁目1番6号 札幌小暮ビル
（株）建設技術研究所 北海道支社
北海道支社長 相澤 利忠

評価点

審査項目	配点	受託候補者	2位	3位	4位	5位	6位
企画提案に関する項目							
市内交通の現状把握は、公共交通と民間商業施設等の連絡バス等が網羅される内容となっているか	20	16.8					
利用者ニーズについて、的確に把握、調査できる内容となっているか	20	17.2					
課題整理と分析は、各種課題の抽出と、対応する改善案が提案されることになっているか	20	17.6					
地域公用交通計画(素案)は、クロスセクター効果を踏まえて設定された目標等に基づいて検討・作成され、実現性の高いものとなるか	25	19.6					
実施スケジュールは妥当か	5	4.6					
提案価格に関する項目							
提案内容が適切に計上されているか	5	4.0					
事業者に関する項目							
事業を適切に実施できる人員を有しているか	5	4.4					
合計	100	84.2	73.6	72.6	72.4	69.8	41.4

審査委員会委員

奥平 理（北海道教育大学函館校准教授）

木村 健一（公立ほこだて未来大学教授）

西村 淳（函館大学教授）

酒井 周一（北海道運輸局函館運輸支局首席運輸企画専門官）

槇塚 貴稔（北海道渡島総合振興局地域創生部地域政策課
新幹線推進室長）

(参考資料)

調査事業スケジュールについて

(株式会社建設技術研究所提出「業務計画書」からの抜粋を基に作成)

< 業務工程表 >

項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
(1) 市内交通の現状把握	■							
(2) 利用者ニーズの調査	■							
(3) 課題整理と分析			■					
(4) 地域公共交通計画に係る調査報告書の作成					■ 基本的な方針と目標の設定		■ 報告書(案)作成	
函館市地域公共交通協議会の開催		☆				☆		☆

※ 函館市地域公共交通計画は、受託者からの報告書をもとに、当協議会で協議したうえで、函館市では令和5年度中に策定を予定している。